

第12回 喬木村社会福祉大会

つなげよう ひろげよう 福祉の輪 笑顔の輪

令和元年 **12月1日(日)** 喬木村福祉センター
9時15分開場 多目的ホール

【第1部】 9時45分より

- オープニングセレモニー
式典
福祉活動発表
- ： 飯田養護学校あじまっ鼓太鼓演奏
： 福祉功労者表彰
： 認知症を理解する活動
- ①サロン活動紹介
②コグニサイズ



【第2部】 11時00分より

映画「ぼけますから、よろしくおねがいします」(102分) 上映会

■スケジュール

- 9:15 開場・受付
9:45 開会
～オープニングセレモニー～
10:00 式典
・主催者挨拶
・福祉功労者表彰
・来賓祝辞
10:30 福祉活動発表
10:45 休憩(15分間)
11:00 映画上映会
「ぼけますから、よろしくおねがいします」
12:45 物産店
(開会前、休憩時間にも販売いたします)
13:00 終了

☕ コーヒーの
無料サービスも
あります!



認知症の母と
耳の遠い父と
離れて暮らす私。

広島県呉市。
泣きながら撮った
1200日の記録。

監督:信友 直子

物産店

地元筒井園芸さんの
シクラメン、さくらの園
のパンとお菓子の販
売を行います。



主催：喬木村社会福祉協議会

後援：喬木村



カメラを向け、初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めめめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。(56歳女性)

いまだに涙がとまりません。思いやりが人生を豊かにすること。忘れずに生きていきたいです。(49歳女性)

まるでお家にお邪魔しているように。心がキューっと苦しくなったり、ぼつ、と心が温かくなったり。(29歳女性)

お三方の声のなんと優しいこと。こんな優しさに満ちた声の響きを聞いたことはありませんでした。(74歳男性)

番組にいただいた感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…娘さんの泣きながらの撮影にもらい泣きました。(55歳女性)



ドキュメンタリー映画

ぼけますから、よろしくお願いします。

令和元年 **12月1日(日)** 第12回 喬木村社会福祉大会
会場：喬木村福祉センター 第2部 **11時00分**より上映